

4. 患者および患者家族に対する鍼灸に関する意識調査の報告

研究協力者：横西 望

明治国際医療大学鍼灸学部鍼灸学科 基礎鍼灸学講座

明治国際医療大学鍼灸学部鍼灸学科基礎鍼灸学講座：篠原 昭二、関 真亮、斉藤 宗則、和辻 直
明治国際医療大学 附属病院 外科学教室：神山 順、糸井 啓純
市立福知山市民病院：中村 洋子、川上 定男、羽柴光起、香川 恵造

【要旨】

本研究から、看護する家族に対して、鍼灸治療を行ってほしいという声が多く聞かれた。

そこで、平成 22～23 年度では、患者を対象に鍼灸治療に対する意識調査を行った結果、自身と同じ病気の知人に鍼灸治療を勧めると答えた患者は 62%であった。平成 24 年度から、患者家族に対して、治療費等に関するアンケート調査を行った。対象には ほぼ毎日看護に来院している。鍼灸師が直接説明、アンケート用紙を手渡せる者を対象としたため、対象数が限られてしまった。調査の結果、患者に対して平均治療回数 2.6 回/週、平均治療費 2,800 円/回であった。また、回答者自身に対しての平均治療回数 2.6 回/週、平均治療費 1,860 円/回と鍼灸治療を希望される声があげられた。しかし、同時に「患者が心配で病院から離れられない」「いい(信頼できる)治療院を知らない」「途中で呼び戻されても、すぐには病院に戻ってこられない」と悲観的な声もあった。

本稿では調査結果および病院内で鍼灸治療実施を推奨する理由を述べる。

【病院内での鍼灸活用】

平成 22 年度からスタートした緩和ケア領域における鍼灸治療の介入研究を行う中で、病院内での鍼灸治療の潜在的需要がかなり高いことに気付かされた。しかし、病院内での活動には、『混合診療(法的問題点)』『費用』『鍼灸師の確保』といった様々な問題点がある。そこで、1) 全国で病院内での鍼灸治療を行って

いる病院、医院を検索し、どのような取り組み方を行っているのか、2) 患者自身や家族の希望される鍼灸治療費等に関する意識調査について、報告する。

1. 法的問題

検索サイト「病院なび」において全国の病院、医院での鍼灸治療を実施している施設は 869 施設存在する。最も多く施設が設けられているのは東京

で 159 施設あり、京都は 20 施設(/869)存在している。隣県である大阪では 81 施設ある。なぜ、全国の医療機関を比較しても鍼灸を取り入れている施設が少ないのかと考えると、やはり口をそろえて言われていることが「混合診療にあたるのではないか」ということである。

それらの行政の問題の解決方法で、提案できる方法が 3 つある。

方法：「混合診療」の定義では「保険診療と自由診療を並行して行う」こととされている。つまり、言い方を変えると、別の日に行えば可能である。実際、病院診療（保険診療）と同一曜日にならないよう、気を付けることで、病院内での鍼灸治療を行っている所がある。

これらは、行政に問い合わせ、検討していただければ解決の糸口があると考えられる。

方法：敷地内に鍼灸治療院を建設し、病院への往診として行えばよく、多くの病院でこの方法が用いられている。ただし、この方法の問題点には、建物の設置場所、費用ともに掛かってくるということである。

方法：近くの鍼灸院と連携する方法がある。もっとも簡単で、費用のかからない手段ではある。しかし、病院内で施行し、何かあった場合の責任の所在が問題になってくる可能性がある。その点からも、病院内関係者である方が、患者や患者家族も安心感があると考えられる。

II. 費用

平成 23 年度は治療対象の患者本人に対して、アンケート調査内容を理解し、了解を得た者に対して実施した。アンケートの内容には、治療を受けてどうであったか、親しい知人で同じ症状だった場合、鍼灸治療を薦めますか、週何回の治療を希望しますか、1 回、何分がよいかといったものである。途中より、1 回の治療費用の希望金額についての質問を口頭にて行った。

対象は 8 名(男性 6 名、女性 2 名)、愁訴別には癌性疼痛 4 名、その他疼痛 4 名、浮腫 1 名、ストレス 1 名、倦怠感 1 名、誤嚥性肺炎予防 1 名(重複あり)である。上記の治療を複数回(約 5 回以上)施行し、アンケート調査を実施した。

その結果、鍼灸治療の満足度では、大変満足 4 名(50%)、満足 2 名(25%)、普通 2 名(25%)、不満 0 名、大変不満 0 名であり、75%が満足感を得られている(図 1)。

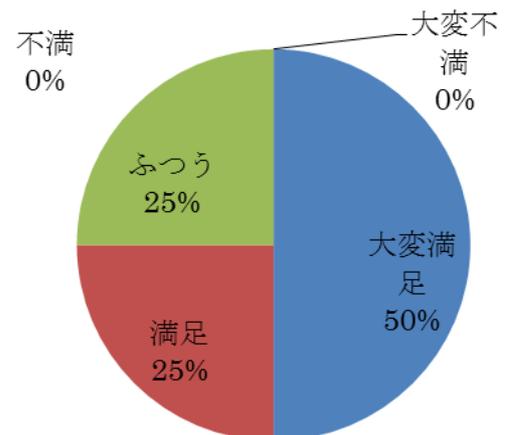


図 1. 鍼灸治療の満足度

親しい知人に鍼灸治療をすすめるかという質問では、絶対すすめる 2 名(25%)、すすめる 3 名(38%)、どちらともいえない 2 名(25%)、すすめない 0 名、絶対にすすめない 1 名(13%)であり、63%が鍼灸治療を推薦すると答えた。絶対にすすめないと答えた 1 名であるが、この患者は末期の乳癌であることを告知されておらず、自身の体調が徐々に悪化していくことに対し、不満を抱えていたためアンケート調査の際も「鍼灸だけやない、病院の治療は何も効果ない！」と鍼灸治療後は痛みが和らぐも、完治に至らなかったことで、絶対にすすめないという回答であったと考えられた(図 2)。

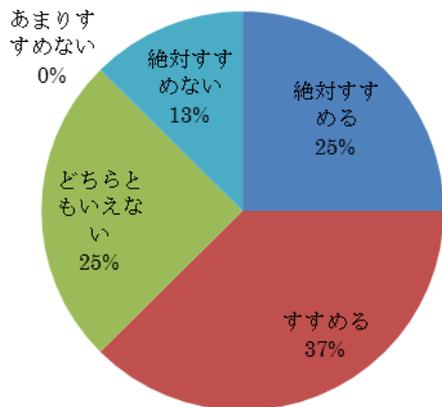


図 2 . 鍼灸治療を勧めるか

治療回数では、必要ない0名、週1~2回2名(25%)、週3~4回4名(50%)、毎日1名(13%)、好きな時に1名(13%)という返答であった。平成23年度では週2回行っていたが、75%が週3回以上の治療を希望された。これからいえることは、少なからず患者自身が鍼灸治療を受けて満足しており、上記の鍼灸治療の満足度の裏付けにも繋がる(図3)。

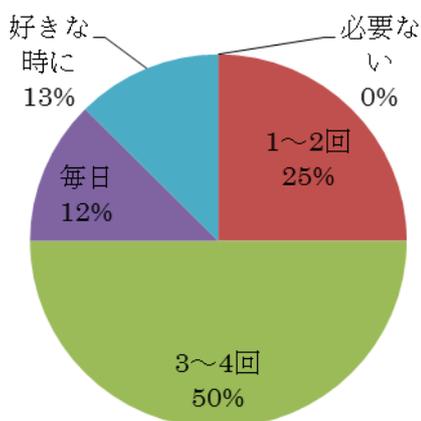


図 3 . 希望される治療回数

しかし、治療時間は必要ない0名、1~2分0名、5分以内3名(38%)、10分以内4名(50%)、10分以上1名(13%)であり、短時間での治療が好まれた(図4)。

また、口答での治療費用の調査を行うも、告知されていない1名を除いた患者の返答のすべてが「抗がん剤などで家族に金銭的負担になっているため、いくらとかは言えない」であった。

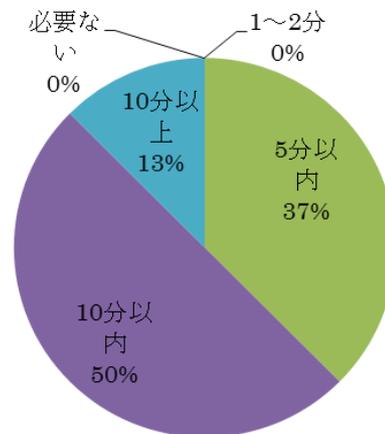


図 4 . 希望する治療時間

そこで、平成25年度ではアンケート調査対象を患者本人ではなく、患者家族を対象とし、実施にした。調査対象の条件には、ほぼ毎日面会に来られており、直接アンケートの説明および手渡しができる場合とした。

平成25年度に福知山市民病院で実施されたアンケート調査では、鍼灸治療に対するイメージ調査として、鍼灸治療介入前と鍼灸治療介入3週間後に調査を行った(別紙1、2)。

調査を実施できた8名(男性1名、女性7名)、年齢49.5±20.0歳。うち、毎日付き添っている家人にお願いしたが、不定期に来ている者が1名混入していた。

3週間後にアンケートが取れた者は5名(男性0名、女性5名)である。その結果、鍼灸介入前「今後、鍼灸治療を取り入れたい」と答えた者は、はい7名、無回答1名であった。「身近な人に紹介するか」には、はい7名、いいえ1名であった。「治療後、引き続き受けさせたいか」には、はい3名、いいえ1名、不明2名、無回答2名であった。不明と答えた2名の返答には「本人次第」、「効果があれば」という答えであった(表1)

表 1 . 鍼灸を希望する意識調査

質問	はい	いいえ	不明	無回答
鍼灸治療を今後、取り入れたいか	7	0	0	1
身近な人に紹介するか	7	1	0	0
今後は受けさせたいか	3	1	2	2

<費用面の回答>

鍼灸治療を受けさせるためには、鍼灸師が必要となる。病院内に勤務した場合を設定し、鍼灸治療にあたり必要な経費がかかってくる。鍼灸道具に関連する費用、鍼灸師の給与、電気代、タオル交換費用などなどである。今回、回答を得られたのは治療開始時8名、3週間後5名と少ないが報告する。希望する鍼灸治療費は、無回答1名、1000円未満2名、1000～2000円1名、2000～3000円4名であった。

最も低額を記載したケースは、以前に鍼灸治療院にて保険診療を受けた経験があり、何度か「自由診療にて」と繰り返し尋ねるも、「できれば、保険と同じ金額で」という返答で、この金額となっている。そのため、平均金額はやや低めになってしまうが、平均2185円、治療回数週3.5回の治療を希望している結果になった(表2)。

表2. 患者に受けさせたい希望治療費(実費)と治療回数

	治療費用(円)	治療回数(回/週)	合計(円)
1	2000	2	4000
2	3000	2	6000
3	3000	3	9000
4	3000	5	15000
5	1000	本人次第	1000×本人次第
6	300	5	1500
7	3000	4	12000
8	無回答	0	0

また、3週間後に回答が得られたものは、5名のみ。対象3の治療回数が3回から5回と増加した。しかし、逆に対象4が5回から2回と減少した。これらの理由を口頭で確認したところ、対象3からは「治療を受けている時が楽そう」であると、対象4からは「入院費用がかかり、収入も無くなったために、治療費をかけられない」とのことだった。

表3. 3週間後の患者に受けさせたい

希望治療費(実費)と治療回数

	治療費用(円)	治療回数(回/週)	合計(円)
1	2000	2	4000
2	3000	2	6000
3	3000	5	15000
4	3000	2	6000
5	非回答	非回答	非回答
6	非回答	非回答	非回答
7	非回答	非回答	非回答
8	非回答	非回答	非回答

鍼灸治療を受ける患者の状態が治療中～翌日まで安定する事から、回答者5名全員が、鍼灸治療の継続治療を希望した。しかし、緩和ケア領域では、化学療法が引き続き行われるケースもあり、治療費がかさむ事で希望治療回数は減るものの、平均2,800円、治療回数2.6回の治療を希望している。また平成22～25年度にかけて、患者本人から看病する家人の疲労していく姿に対し、「家人に鍼灸治療を受けさせたい」という声が多数あがった。そこで、アンケートに回答者(家人)自身の鍼灸治療希望の有無を追加した。

表4. 患者家人の鍼灸治療の希望費用(実費)と治療回数

	希望治療費用	治療回数	合計
1	2000	2	4000
2	3000	2	6000
3	1000	1	1000
4	300	4	1200
5	3000	4	12000

家人の治療希望の結果では、平均1,860円、治療回数週2.6回である。家人は鍼灸治療を希望されるも、実際に近所の治療院やリラクゼーション関連に通院しているのかを口頭にて確認した。家人自身も身体的・精神的疲労を自覚しながらも、現実的には「心配で病院から離れられない」「いい治療院を知らない」「途中で呼び戻されても、困る」など、患者自身が処置している間や、検査等で離れている間に治療を受けられたら、という

声が多かった。

III.まとめ

今回のアンケートでは、病院内での鍼灸師の役割、患者および患者家族に対する治療の必要性を調査したものである。全国各地で鍼灸の取り組みが増えており、リハビリの一部としてだけでなく、麻酔科、整形外科、漢方科にて、鍼灸外来を専門に立ち上げる病院も増え始めている。

緩和ケア領域のみでの調査結果からは、終末期になり患者および患者家族も「できるだけ何かしたい、してあげたい」といった感情により、鍼灸治療を週1回でも2回でも受けさせたいと希望された。別項に記した鍼灸治療経過報告で「鍼灸治療を受けている間だけ痛みを忘れられる」と報告されていることと、前年度までの研究結果から、毎日または日に2回（朝・夕）の治療が好ましいという結果から、頻回の鍼灸治療介入が必要とされている。しかし、1回の治療を2,000円、1日2回の治療を行う設定とすると、1日4,000円かかる。患者から「今までの治療費が高額であったため、これ以上自分自身にお金をかけさせたくない」という声があることから、鍼灸治療を受けたい気持ちと金銭的問題から、我慢せざるを得ない実態となってしまう。これらを踏まえて、病棟治療で治療費設定は一般より安く設定または無償であるほうが望ましいと感じた。

しかし、安価や無償で鍼灸治療を行える鍼灸師を確保するのは、例えば近場で開業している鍼灸師と契約を結んだとしても、鍼灸師側の生活がまず成り立たなくてはならないため、無償で行うことは難しいと考える。また、文頭でも軽く触れたが、院外での鍼灸師に依頼した場合の「責任の所在」が問われることになる。

次に、患者家族に対して、平成22～25年度の治療介入中に多くの患者から「家族にも鍼灸治療できないか？」という質問が多かった。

緩和ケアチームには、勿論患者だけでなく、患者家族が大きくかかわってくるため、患者は自身の看病に疲れをみせる家人に気遣いをみせており、家人自身もまた、不安からくる不眠、腰痛、

肩こり、全身倦怠感、頭痛、浮腫など、多くの愁訴を抱えていた。家人は患者を支える大きな柱の一つであり、体調管理は必要不可欠と考える。しかし、病院外となると移動時間、治療時間にて2時間ほどかかってしまうため、「急変時にすぐに駆けつけることができないから」という回答が多い。そこで、患者の入浴中、処置中、検査中等に行えるようにするためには、病院勤務の鍼灸師が必要である。病院勤務とすることで、患者が急変しても連絡は速やかにとれ、患者家族も安心して鍼灸治療を受けることができる。

【鍼灸師の確保の問題】

鍼灸師には、疼痛部位や筋緊張の箇所直接刺鍼する局所治療を専門とする者、疼痛部位を流れる経絡から四肢末端の経穴に刺鍼する遠隔治療を専門とする者等に大きく分けられる。

局所治療は患者の痛い部位に直接刺すということで、満足度も高く、直後効果も高い。しかし、リスクが遠隔治療より高く、特に重症患者に対して局所治療を行う場合、過度な刺激量により全身倦怠感、愁訴部位に重たさ、内出血などが起こることがあげられる。また、病棟内では体動困難なケースも多いため、刺鍼できない場合もある。一方、遠隔治療の場合、愁訴部位に直接刺鍼されないため満足度は局所治療より落ちるが、直後効果も局所治療と同等の効果あげることが可能である。本臨床試験でも行われた手法のように、5～10mm程度の刺鍼で行われるため過度な刺激量とならず、リスクも低い。また、体動困難な患者に対しても四肢末端の経穴を使用した治療法のため、可能である。

しかし、様々な疾患に対して治療ができるという経験だけでは、病院勤務は難しい。病院内では主治医、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカー、介護福祉士など多職種が存在する。緩和ケアチームでは、更に、緩和ケア担当医、緩和ケア担当看護師、精神科医、放射線科医と関わるスタッフは増える。この多くの職種の中で何ができ、何が求められているのかを理解し、行動しなくてはならない。

本研究での経験から感じた、鍼灸師の強みとし

で挙げるのは、『四診法』である。望診、聞診、問診、切診により、患者は「自分をみてもらえている」「自分の会話を聞いてもらえる」「痛いところを理解してくれている」「自分で出来る範囲のアドバイスをくれる」と感じ、鍼灸師に対して信頼を寄せることになる。実際、症例の中には、オキシドロン塩酸塩製剤を使用することに抵抗があり、医師、看護師に相談すれば「使う事をすすめてくるのは決まっている」と相談されず、拒否されていた。しかし、緩和医療の経験がある鍼灸師なら、別視点からの意見をくれるのでは、と相談してきたことがある。その際に鍼灸師側の経験や、薬に対してのアドバイスしたところ「相談できてよかった。使ってみる」と喜ばれた。チーム医療とは一人の患者を含めた多職種の輪であり、一本一本の柱が患者を支える大きな柱になると考える。このケースは偶然、患者が鍼灸師を「信頼できる柱」の一つに加えたケースが、この一つの柱で患者と医療者側のつながりをより強いものにかえることは間違いないと考える。

上記をまとめると、経験豊富で、チームワーク力があり、患者にとって信頼できる柱となれる鍼灸師の確保が重要となる。女性患者がいる場合は、女性鍼灸師も必要である。

別紙 1

アンケート (1 回目)

この度、鍼灸治療の治験にご協力いただき、誠にありがとうございます。

ご家族の皆様「鍼灸治療に対するイメージ」のアンケート調査にご協力をお願い致します。

実施は2回、鍼灸治療を始める前と数週間後をお願い致します。

下記で治療費の話に触れますが、今回は臨床治験ですので無料で鍼灸治療が受けられます。

今後の参考にさせていただくアンケートですのでご協力よろしくをお願い致します。

記入者の性別： 男 ・ 女 年齢：() 歳 患者との続柄 ()

あなたは鍼灸治療を受けられたことがありますか？ はい ・ いいえ

家族・友人で鍼灸治療を経験したことのある人はいますか？ はい ・ いいえ

医師・看護師から話があったので受けさせようと思った はい ・ いいえ

医師・看護師から話がなくても鍼灸治療が受けられるのならば受けさせようと思っていた

はい ・

いいえ

1) あなたの鍼灸に対するイメージをお答えください。

鍼灸は肩こり・腰痛に効果がある ある ・ ない ・ わからない

鍼灸は重症な病気にも効果がある ある ・ ない ・ わからない

2) あなたの鍼灸に対する恐怖・不安・不信感をお答えください。

鍼に対する不安・恐怖はありますか？ ある ・ ない ・ わからない

灸に対する不安・恐怖はありますか？ ある ・ ない ・ わからない

い

3) 今現在の鍼灸治療に対する思いについてお聞きします。

今後、鍼灸治療を選択肢として取り入れたいですか？ はい ・ いいえ

身近な人が同じ状況だった場合、鍼灸治療を紹介しますか？ はい ・ いいえ

鍼灸治療に対して治療費はいくらぐらいで受けたいですか？ (実費にて) [] 円 / 1回

(一般的な治療費：3000円～5000円程度 日本鍼灸師会平成Pより)

また、週何回治療を受けさせたいですか？

回 / 週

治験終了後も鍼灸治療を受けさせたいと思いますか？ はい ・ いいえ

患者さんだけでなく、ご自身も鍼灸治療を受けたいと思いますか？ はい ・ いいえ

～ で「はい」と答えられた方のみお答えください～

ご自身の治療にはいくらぐらいで受けたいですか？ (実費にて) [] 円 / 1回

また、週何回治療を受けたいですか？

回 / 週

何に対しての治療を希望されますか？

アンケート（2回目）

この度、鍼灸治療の治験にご協力いただき、誠にありがとうございます。鍼灸治療をはじめて3週間となりました。

前回同様、下記で治療費の話に触れますが、臨床治験ですので治験中は無料で鍼灸治療が受けられます。

今後の参考にさせていただくアンケートですのでご協力よろしくお願い致します。

記入者の性別： 男 ・ 女 年齢：() 歳 患者との続柄 ()

1) あなたの鍼灸に対するイメージをお答えください。

鍼灸は肩こり・腰痛に効果がある ある ない わからない

いい

鍼灸は重症な病気にも効果がある ある ない

わからない

2) あなたの鍼灸に対する恐怖・不安・不信感をお答えください。

鍼に対する不安・恐怖はありますか？ ある ない

わからない

灸に対する不安・恐怖はありますか？ ある ない

わからない

3) 今現在の鍼灸治療に対する思いについてお聞きします。

今後、鍼灸治療を選択肢として取り入れたいですか？ はい

いいえ

身近な人が同じ状況だった場合、鍼灸治療を紹介しますか？ はい

いいえ

鍼灸治療に対して治療費はいくらぐらいで受けたいですか？（実費にて）

円 / 1回

（一般的な治療費：3000円～5000円程度 日本鍼灸師会平成Pより）

また、週何回治療を受けさせたいですか？

回 / 週

治験終了後も鍼灸治療を受けさせたいと思いますか？

はい ・

いいえ

ご家族からみて、この3週間の鍼灸治療の効果はありましたか？

ある ・

ない ・ わからない

患者さんだけでなく、ご自身も鍼治療を受けたいと思いますか？

はい ・

いいえ

~ で「はい」と答えられた方のみお答えください~

ご自身の治療にはいくらぐらいで受けたいですか？(実費にて)

円 / 1回

また、週何回治療を受けたいですか？

回 / 週

何に対しての治療を希望されますか？

4) 患者さんに対してお聞きします。

*3週間、鍼を受けた結果、鍼は痛かった、または痛い様子でしたか？ はい ・ いいえ ・

わからない